

可茂地区家庭教育学級応援通信



いいかも

風のように舞い上がれ！今年も前を向いて、共に進んでいきましょう！

可茂県事務所 振興防災課
家庭教育推進専門職 安田 早由里
〒505-8508
美濃加茂市古井町下古井 2610-1
TEL：0574-25-3111 内線 208
FAX：0574-25-3934
令和6年度 1月号 No. 1 0

可茂地区トレジャーワード

育もう豊かな感性 ～泣いて、笑って、ともに歩もう～

美濃加茂市・可児市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村・御嵩町



「いいかも」
こちらから

明けましておめでとうございます。
今年もよろしくお祈いします。



皆様お揃いで、新しい年をお迎えのことと存じます。昨年は、家庭教育学級の普及・啓発にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。可茂地区の子ども達が、皆、健やかに育ちゆくことを願い、今年も、皆様の悩みや苦しみに寄り添いながら、子育ての楽しさ喜びがあふれる日常を過ごしていただけるよう、家庭教育学級の支援に努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお祈いいたします。

子育て・家庭教育学級三二情報

■家庭の日とは

「家庭の日」運動は、1955年（昭和30年）に鹿児島県の小さな町で生まれました。家庭の中での家族の絆が薄れつつあることから「**家庭を大切に**」という願いと当時ほとんど休みのなかった農業従事者のための「農休日」という考えが一緒になって生まれました。



岐阜県では、昭和42年に**岐阜県家庭の日を定める条例**を設置し、毎月第3日曜日を「家庭の日」と決めました。家庭は、**ふれあいと安らぎの場**であるとともに、**青少年の人格が形成される基盤**です。また、**人との関係のあり方や社会のルールを学ぶ場**でもあります。

これらのことを家庭や地域が再認識し、「**心豊かで明るい家庭**」づくりを進めることが望まれています。「家庭の日」をきっかけにして、家庭の大切さや家族のあり方について見つめ直していきましょう。

先月号（12月号）の美濃加茂市立西中学校の家庭教育学級実践例の中に、一部記載間違いがありました。お詫びして訂正をさせていただきます。

「傾聴のポイント」

- うなずき・あいづち・オウム返し・要約
- × 否定・評価・意見の押し付け・不遜な態度
- ・助言は慎重に、リアクションは、程ほどに。
- ・分からないことやもっと詳しく話してほしい時は、**オープンクエスチョン**。
- ・沈黙を共に味わう → 上級
そんな時は、「何か話しづらい？」という一言。

1月号では、4つの実践例を掲載します。

次頁より（P2～5）

1月は、保育園・小学校・中学校・市の講座を活用した実践例を一つずつ紹介します。





在宅取組型

No.24

白川町立白川保育園 家庭教育学級

「メディアコントロール」

学級の目的

白川町では、保・小・中が連携し、メディアを意識した取組を行っています。その中でメディアコントロールを行っているのは、白川小学校区（白川小・白川保育園・白川北保育園）となります。ただ単に「メディアの時間を減らす、メディアから離れる」ということだけでなく、それに代わる楽しいことを見つけてほしい。メディアがないことを嫌な時間にするのではなく、楽しい時間になりたい。」そんな願いで取り組みます。

実施期間：7・10・2月を目安とし、基本年間3回実施（同じ校区内の保・小・中が連携した取組です。）

第2回目：R6 11/1～11/5の5日間

対象：白川保育園 全園児とその家庭

内容：メディアコントロール（メディアを減らした時間に楽しく過ごす方法を見つけたい！）



白川保育園では、開級式で、年間の見通しのみならず、園長先生より、家庭教育学級の大切さについてお話をされるとのことです。メディアコントロールの取組を行うと、必ず、その後に行う参観日の懇談会で交流を位置付けておられます。1回目の取組（7月）の後は年少クラスが、2回目（今回）は年長・年中が、3回目の後は、未満児クラスでサロンを行うとのこと。ざっくばらんに活発に、意見交流ができています。

＜2学期＞
【取組期間】 11月1日（金）～11月5日（火）の5日間

【チャレンジコース】どのコースにチャレンジするか○でかこむ

レベル1	◆夕食の時からノーメディア ※夕食のときは、メディアからはなれるコース
レベル2	◆ねる1時間前はノーメディア ※ねる前はメディアからはなれるコース
レベル3	◆メディア1日2時間まで ※番組やゲームの時間を決めて取り組むコース
レベル4	◆メディア1日1時間まで ※レベル3を短くしたコース
レベル5	◆夕食の時からノーメディア ※夕食時からねるまで、メディアからはなれるコース

【取り組む人】○でかこむ

A	家族全員	月日（曜日）	11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日
B	保護者と子ども		（金）	（土）	（日）	（月）	（火）
C	子どもだけ	できた ○ できない △ 絵本読んで もらったかな？ もらった ○	○	△	○	△	○

【取組の感想】

おうちの人の感想

目標が決めやすいように、チャレンジコースの提示があります。（レベル1～5）1回目より2回目と、レベルを上げていく家庭が多くあります。



＜2学期＞
【取組期間】 11月1日（金）～11月5日（火）の5日間

【チャレンジコース】どのコースにチャレンジするか○でかこむ

レベル1	◆夕食の時からノーメディア ※夕食のときは、メディアからはなれるコース
レベル2	◆ねる1時間前はノーメディア ※ねる前はメディアからはなれるコース
レベル3	◆メディア1日2時間まで ※番組やゲームの時間を決めて取り組むコース
レベル4	◆メディア1日1時間まで ※レベル3を短くしたコース
レベル5	◆夕食の時からノーメディア ※夕食時からねるまで、メディアからはなれるコース

【取り組む人】○でかこむ

A	家族全員	月日（曜日）	11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日
B	保護者と子ども		（金）	（土）	（日）	（月）	（火）
C	子どもだけ	できた ○ できない △ 絵本読んで もらったかな？ もらった ○	○	○	○	○	○

【取組の感想】

おうちの人の感想

- 取組後の懇談が有意義なものになるよう、園は話しやすい雰囲気づくりに心がけています。
 - 手作りカード三回分を一つの冊子に閉じ、年間の推移が確認できるようにしています。
 - 取組後は、通信にまとめ、保護者に結果を周知し、次の回につなぎます。
- ～園と家庭の連携は、取組充実の鍵～

＜保護者の感想より＞

- 一日の中で、話しをする時間が増えました。
- 自然とメディアにこだわらなくなってきました。
- 家で、兄弟で「ノーメディアだよ」と言う姿が見られました。保育園と小学校が一緒なので取り組みやすいと思いました。
- 土日を含めた5日間の取組は、少し難しいかなと思いました。（休日は、どうしてもテレビを観てしまいます。）
- メディアを消すことで、それに代わる楽しい過ごし方を考えることができました。
- 子どもと共感しながらアツという間に取組期間が過ぎました。
- 「無口なお父さんがいっぱい話してくれた。」と父親との会話を喜んだという子ども達の声を聞くことができました。





学校行事参加型 + 講演会型 + 体験活動参加型

No.25

御嵩町立上之郷小学校 家庭教育学級



「性教育」 1・2年生
 「情報セキュリティすごろく」 3・4・5・6年生

年間活動目標

子育てについての交流を図り、共に楽しみ高め合おう

日時：R6.11.29（金） 14:00～14:45

※その後、学級懇談会

対象：児童と保護者 全校児童数74名 (学年によって講座が違います。)

講師：はやせ ひろたか 早瀬 浩孝氏
 あだち ゆうき 足立 佑貴氏

岐阜県環境生活部 私学振興・青少年課

講師：なかむら かずえ 中村 一恵氏

“人間と性”教育文化センター理事
 岐阜県“人間と性”教育研究協議会幹事
 “レインボーぎふ”スタッフ

「情報モラル」のことを勉強する授業
 3・4・5・6年生対象



遊びながら、考えよう！ 良い判断、やってはいけないこと

- ・情報が本当かウソかを見極める！
- ・ながらスマホの難しさを体験！
- ・情報モラルクイズに挑戦！
- ・止まったマスやクイズでは、声を出して読み上げよう！



是非、家に帰ってルールを見直してみよう、話し合ってみよう。守れなかった時どうするか、使い方の約束を話題にしましょう！
 *県の私学振興・青少年課が行う「情報セキュリティすごろく」の出前講座を活用した学級です。

「ルールを理解するまでは大変だったが、子どもたちと一緒に、学べてよかった。」
 「やってはいけないことが何か、子どもともども理解することができた。」 (参加者より)

「いのち」のことを勉強する授業
 1・2年生対象



男女の体
 「プライベートパーツ」
 自分だけが見ていい、触っていい。
 大切にするとこ。



「子どもは被害者になるだけだと思っていたが、加害者になることもあるとはじめて知った。」
 「家庭ではなかなか教えられないことを、分かりやすく教えてもらえてよかった。」 (参加者より)

講座開設にあたり、「子どもが小さいうちに性について学びたい、学ばせたい」「情報モラルは、聴くことだけより何か活動を入れると学びやすいのでは」等、保護者が積極的な意見を寄せてくださったとのことです。講師のご希望（紹介）もあり、その方を招聘し、本講座が開設されたそうです。



講演会型

No.26

可児市 子育てまなび講座

子どもの心に関する講座

「子どもの特性を知り、付き合おう」

日 時：R6. 12. 9 (月) 10時～11時半
 場 所：可児市福祉センター（一般の方及び家庭教育学級生対象の講座です）
 参 加 者：保護者 42名 市担当者 3名
 ※この講座は、めぐみ保育園・南帷子小・春里小・西可児中・東可児中が家庭教育学級で活用しています。



講師：かわはら さとし (岐阜県・可児市スクールカウンセラー スーパーバイザー) 臨床心理士・公認心理師
川原 聡 氏

- 子どもが分からない？
 - ・子どもと付き合うのは疲れる…理解できないから 通じないから
 - ・子どもの特性を知って関わる。
 - ・子どもが自分とは異なる文化や独自の「世界」を持っていることを認めて関わる必要がある。
- 「自分である」ことを否定しない
 - ・他の人とは違って、あなたに価値がないことにはならない。他の人があなたと違う考えや意見をもってあなたが否定されたことにはならない。
 - ・「自分」も「他人」も否定してはならない。

- 人づきあい＝国際交流？
 - ・あなたと周りの人とは、「国」が違うほどに異なっている。
 - ・同じ言葉を使えばわかり合えるわけではない。
 - ・コミュニケーション＝国際交流
- 国際交流・・・まずは説明から
 - ・自分の「文化」を説明する。
 - ・相手の「文化」を聴く。
 - ・全部理解できなくてもいい 「そうなんだ」
- 良い親子関係（愛着）を築くために
 - ・非を認めたらほめる。
 - ・ポジティブな点を認める。
 - ・「報告」に耳を傾ける。(ご講話より)



子どもは、愛すべき「私とは別の世界の人」
 ・その子の特性を知る。
 ・自分の世界も伝える。
 ・わからなくても付き合う。



家庭教育学級役員さんによる受付



講演会



隣席の方との意見交流

この講座は、家庭教育学級生や子育て中の保護者、子育てに関心のある方を対象に、可児市子育て支援課が、年5回開催しています。



お子さん連れへの配慮
 ＊ゆったり間をとった席が設けてあります。
 ＊床に腰を下ろせるシートが敷いてあります。
 ＊別室で、託児を行っています。

○子どもが見ている世界と自分が見ている世界は違うとか、「解釈」する会話の仕方とか、知識として知ってはいるが、我が子を前にするとなかなか実践ができないことも多いことに改めて気づかされました。まだ間に合うか不安ですが、改めて子どもを理解する所から、意識してみようと思います。

○視覚優位のお話がとても参考になりました。正に先日、目の前の本の下にあるものを「ない！探した！」と言い張る我が子に怒りをぶつけてしまった所でした。自分と我が子達の特性を知り、お互いを理解できるよう伝え合っていこうと思いました。

○すごく分かりやすい説明でした。なぜ？と思うことがたくさんあったので、文化の違い、国際交流と聞いて「なるほど」と思えたので、この言葉を忘れずに使いたいと思います。悩みの振り子の話を聞き、自分の子どもの頃の気持ちを思い出しました。確かに自分も心が揺れ動いていたので、なんか少しだけ分かってあげられる気がします。自分に自信がない子だったので、長い時間この気持ちに悩んでいました。

○子どもとの付き合いにとっても悩んでおりましたので、とても参考になり、気持ちも少し楽になりました。子どもは違う世界の人間だと思って接することで子どもを理解しようと思えるようになりました。子どもも今、小学校でとても悩んでいる時期だったので特に「悩みの振り子」「いじめの背景」のところはまさに今、子どもが受けている状況だったので家での関わり方とか、声かけなどすぐに実践したいと思いました。すぐには変わらないかもしれませんが、私自身も変わり、「愛情+制限」これからも、良い関係を築いていきたいです。(参加者の声より)



講演会型

No.27

東白川村立東白川中学校 家庭教育学級

「親子情報モラル教室」

学級の目的

情報機器を正しく使いこなせるようデジタルの特性や、それを活用して起こるであろう問題を学ぶと共に、今ある「ルール」が自分（わが子・家族）にとって適切かどうか見直す機会にする。

日時：R6. 12. 13（金） 第5校時（13時40分～14時30分）
 場所：東白川中学校 1年生教室
 参加者：1年生保護者 8名 教頭先生 教育委員会担当者
 （東白川中は、1年生の保護者が家庭教育学級の対象者です。）



講師：かわぐち みさ 氏 N T Tコミュニケーションズ株式会社 東海支社

「情報」は、私達の生活に深く関わっています。使わないという選択肢は、ありません。

「特徴を知った上で、正しく使ってほしい」

OSNSのトラブル・・・炎上

- 寿司チェーン店の動画…
多くの人への心理的・物理的損傷、多額の賠償金
- 大学のサークル活動の動画…
退学処分、自主退学、風評被害、就職にも…
- 炎上後の影響 → 自分・自分以外に多大な影響。

○デジタルの特性その1

一度投稿したものは、すぐに拡散し、その情報を完全に消すことはできない。(デジタルタトゥー) 仲の良い関係でも、SNSに載せる時は、確認する。特に悪ふざけの写真等は、慎重に！(肖像権の侵害・個人情報の漏洩等に関わる。)

デジタルの特性その2

見えないところで情報が拡散し、浸透し、トラブルに気づきにくい。(一瞬にして今の生活や将来を脅かす)

○スマホを使い過ぎてしまう要因と対処

- ・対人的な要因 (自分にとって、優先度が高い人から通知があった時) →どこまでやるかを表明する。
アプリ通知を制限する。
不快にさせない断り方を用意しておく。
- ・心理的な要因 (モチベーションが低い時) →小さい楽しいものをはさむ。
することのリスト化
- ・環境的な要因 (だれからも注意されない時) →終わるための合図を決めておく。
時計を近くにスマホを遠くに。
あえて使いにくくする。(別の場所に置くことがおすすめ!) (ご講話より一部抜粋)

何かあったら
すぐ相談、
一人で
抱え込まない!



この日の講座は、二部構成で進みました。前半は、「情報モラル」について講師のお話を聴き、後半は、保護者と一緒に「家族ルールの振り返り及び修正」を行いました。



- 以下の4点を親子で話題にしました。
- ①現在、家族ルールはありますか？
「はい」 ・ 「いいえ」
 - ②「はい」と答えた家族は、家族ルールの内容を書いてください。
 - ③「はい」と答えた家族は、そのおよその達成度 (%) を書いてください。
 - ④今後の家族ルールを親子で、具体的に決めてください。



自分にとって今あるルールが正しいかどうか考える機会になるといいですね。
この家庭教育学級を、親子で話し合う機会にしてほしいと思います。親子で一番のルールを決めましょう！
(村教委担当より)

講師より、生徒の学ぶ姿について「反応がありメリハリもある素敵な子ども達ですね」という言葉をいただきました。教頭先生や村教委の担当者もこの家庭教育学級に参加し、サポートしておられました。

令和6年度の役員の皆様へ ～そろそろこんな時期です～



＜今年度をまとめ、次年度へ引き継ぐ準備に取り掛かりましょう。＞

◇今年度の活動を振り返りましょう！

一年間の活動を振り返り、よかったこと学べたことを通信等で具体的に紹介してみてもはどうでしょうか。読んだ皆さんから、「行ってよかった」「行けばよかった」と思ってもらえるような伝え方ができるといいですね。

◇参加者の感想や要望を聞きましょう！

情報収集は、アンケート形式にしたり、閉級式・閉講式を活用したりします。話し合いをもつ際は、グループに分かれると発言しやすくなります。役員さんがそれぞれのグループに入って感想や意見を集約し、ここで出る要望やアイデアを来年度の活動計画を立てる参考にしてもらいましょう。

◇一年を終えての役員としての感想を伝えましょう。

役員を引き受けた時の気持ちや閉級式・閉講式を迎える今の気持ちを話してください。頑張ってくださった役員さんの声は、参加者の心に響きます。来年度役員を引き受けてくださる方を勇気づけることになります。

◇参加・協力してくださった皆さんに感謝の思いを伝えましょう。

参加してくださった皆さんに、一緒に学べたこと、協力してもらえたことへの感謝の気持ちを伝えましょう。ここでできたご縁をこれからもつないでいけるとよいですね。

県内各地区の「家庭教育学級応援通信」の紹介

県内各地区の様々な家庭教育学級の実践が通信に掲載されています。

岐阜地区



西濃地区



中濃地区



東濃地区



飛騨地区



次年度の活動計画を立てる際の参考にさせていただけるかと思えます。引継ぎをお願いします。

